

◆デカログ賞!◆

「ここ二十年の間で一本だけ好きな映画を選ぶとすれば、それは間違いなく『デカログ』である」

スタンリー・キューブリック

「2001年宇宙の旅」映画監督

「一本一本が素晴らしく、十本通して見ると一つの作品としてさらに素晴らしい。私もいつかあのような方法で映画を撮りたい」

侯孝賢

「咖啡時光」映画監督

「彼の作品はどれも素晴らしいが、中でも『デカログ』は特別だ」

エドワード・ヤン

「ヤンヤン・夏の思い出」映画監督

「allez le voir! ぜひこの映画を見て下さいね!」

アニエス・b

ファッション・デザイナー



5月21日[土]より期間限定・《復活》のロードショー!!

日程/上映時間	11:00	13:30	16:00	18:30
5/21 [土]	1+2	3+4	5+6	7+8
5/22 [日]	9+10	1+2	3+4	5+6
5/23 [月]~5/25 [水]	7+8	9+10	1+2	3+4
5/26 [木]~5/28 [土]	5+6	7+8	9+10	1+2
5/29 [日]・5/30 [月]	3+4	5+6	7+8	9+10
5/31 [火]・6/1 [水]	7+8	5+6	3+4	1+2
6/2 [木]~6/4 [土]	9+10	7+8	5+6	3+4
6/5 [日]・6/6 [月]	1+2	9+10	7+8	5+6
6/7 [火]・6/8 [水]	3+4	1+2	9+10	7+8
6/9 [木]・6/10 [金]	5+6	7+8	1+2	9+10

1=「ある運命に関する物語」 2=「ある選択に関する物語」 3=「あるクリスマス・イブに関する物語」 4=「ある父と娘に関する物語」 5=「ある殺人に関する物語」
6=「ある愛に関する物語」 7=「ある告白に関する物語」 8=「ある過去に関する物語」 9=「ある孤独に関する物語」 10=「ある希望に関する物語」

◆各回入替制◆

特別鑑賞券・チケットぴあにて独占発売中!

前売1回券1,400円/前売5回券5,500円(いずれも税込)→前売5回券は5/20(金)までの発売となります
当日料金(税込)一般1,700円/大・高1,400円/中・小・シニア1,000円

ユーロスペース 〒03(3461)0211

渋谷駅南口下車2分 JTB前さくら通り上がる

www.eurospace.co.jp

「デカログ」新マスター・改訳字幕使用の〈デジタル修復版〉にて——今夏DVD・BOXでも復活決定!

限定発売だったため、ほぼ入手不可能だった国内版DVDが待望の〈デジタル修復版〉で甦る!

発売元: Imagica 販売元: 紀伊國屋書店

“名画を愛するチャンネル”洋画★シネフィル・イマジカ

毎晩9時から、ハリウッドやヨーロッパの名作、ヒット作、すべてノーCM ノーカット <http://www.cinefil-imagica.com>

洋画★シネフィル・イマジカは、下記の方法でご覧いただけます。

SKY PerfectTV!

ご加入に関するお問い合わせは、
tel. 0570-039-888/045-339-0202 (ch.260)

SKY PerfectTV! 110

ご加入に関するお問い合わせは、tel. 0570-012-110 (ch.224)
受付時間10:00~20:00(年中無休)(番号はお間違いのないようお願いいたします。)
お電話いただく前に、有料放送契約規約 (<http://www.customer.skyperfecttv.co.jp/>)
の内容をご確認ください。

ケーブルTV

ご加入に関するお問い合わせは、
お近くのケーブルTV局へ

『トリコロール』3部作『ふたりのペロニカ』の巨匠・最高傑作

20世紀最大の“^{アイコン}聖画像”、ついに復活。

ある運命に関する物語

ある選択に関する物語

ある希望に関する物語

ある孤独に関する物語

ある過去に関する物語

ある告白に関する物語

ある愛に関する物語

あるクリスマス・イブに関する物語

ある父と娘に関する物語

ある殺人に関する物語

ある愛に関する物語

一篇の愛が、あなたの心に触れる

そして十篇の愛が、あなたをつつむ

デカログ

DEKALOG

クシユトフ キェシロフスキ監督作品

新マスター・改訳字幕使用の〈デジタル修復版〉。キェシロフスキ監督没後10年に先駆けトリビュート上映
1988年ポーランド映画 | 全557分 | 配給:シネフィル・イマジカ | 協力:紀伊國屋書店

後援:ポーランド大使館



ポーランドを代表する“愛”の映画作家キェシロフスキの最高傑作、待望の復活!

54歳という若さで世を去ったいまなお、時代や世代を超えて支持され続けるポーランドの巨匠クシシュトフ・キェシロフスキ監督(1941-96)。日本でも『トリコロール』3部作(93~94)や『ふたりのペロニカ』(91)がいまだに高い人気を誇りますが、そんなキェシロフスキ監督の、質・量とも他作品を凌駕する最高傑作『デカログ』の、約10年ぶりのリヴァイヴアル上映が決定しました。一本が約60分×10本で構成されたテレビ作品である本作は本国で最高視聴率62%を記録、その完成度の高さから他国では劇場公開されパリの96週に渡りロングラン、ヴェネチア映画祭など多数の映画賞にも輝いております。日本では96年に銀座テアトル西友(現・銀座テアトルシネマ)を皮切りに全国公開され連日満席の大ヒット、熱狂的リピーターを生みましたが、権利期間の終了で上映が途絶えていたことからリアルタイムで体感した世代、そしてまだ見ていない世代より再上映が待望されておりました。

10篇の物語が織りなすさまざまな“愛”のかたち。あなたは、いくつ見つけられますか

聖書に登場するモーゼの「十戒」をモチーフに創られた10篇のオリジナル・ストーリー。ワルシャワ市内の団地を舞台に、出会うはずのない人々がいつか触れ合い、すれ違い、別れ、或いは結ばれてゆく——そんな一本一本の意外性に満ちた物語が見る者を捉えて離しません。そしてそこには人間が抱く感情——喜び・悲しみ・切なさ・可笑しさ・不安・そして希望——が込められ、根底にさまざまな形の“愛”が流れています。一話ずつ単独で見ても味わい深い本作ですが、第一話から順を追って全作を見ると他の挿話の登場人物がリンクしあっていることが分かり、一枚の壮大なタペストリーを眺める思いです。

新マスター・改訳字幕の《デジタル修復版》。没後10年に先駆けたトリビュート上映

今回の上映に際しポーランドから良質な状態の新マスターを取り寄せ、さらに日本でデジタル修正を施し画面上の傷を極力排除しました。また寺尾次郎氏自ら前回の字幕を全面的に改訂。『ヘヴン』(02)に続く遺稿『HELL』(原題/エマニュエル・ベアール主演)の映画化の日本公開も控える来年の没後10年目に先駆け、遂に20世紀最大のアイコン『デカログ』が《完全版》というべき形で新世紀に蘇ります。

第1話 ある運命に関する物語



小学生の息子パヴェウからどうして人は死ぬのかと聞かれ、無神論者で魂の存在を信じていない大学教授の父クシシュトフは戸惑う。その時はまだ、予想もしない悲劇が彼を襲い「神」の存在と対峙しなくてはならないとは知る由もなかった——パヴェウ役V・クラタ少年の愛くるしさ、意外な展開で見るとの心を掴んで離さない、10篇の中でも人気の高い作品。(53分)

第2話 ある選択に関する物語



孤独な老医師を訪ねてきたヴァイオリニストのドロタは彼が診察している彼女の夫の容態を執拗に聞き続ける。実は彼女は夫を愛してはいるが同僚と不倫関係にあり、子供を身ごもっていた。重態の夫との愛を貫くか、初めての愛の結晶を取るか。苦悩する彼女を見かねた医師が下した見解とは——『大理石の男』の名女優K・ヤングの静謐な美しさが強い印象を残す。(53分)

第3話 あるクリスマス・イヴに関する物語



イヴの夜、タクシー運転手のヤヌーシュの元に来訪者が。現れたのは別れた恋人エヴァだった。戻らない彼氏を探してほしいと懇願され、仕方なく夜の街に出るヤヌーシュだが、次第に彼女の話がおかしいと思いはじめ。聖夜を迎えるワルシャワを彷徨うかつての恋人どうしの行く末は——『プリキの太鼓』などの国際派、D・オルプリスキを主演に迎えた味わい深い一篇。(56分)

第4話 ある父と娘に関する物語



「わたしはパパの子じゃない」父の死後開封のこと、と記された封筒を開けてしまったアンカは彼女の出産時に亡くなった母の秘密を知る。恋人に生き写しの娘と暮らす父と、幼いころから父親に肉親以上の感情を抱いていた娘。親子関係が崩れたとき、二人の選んだ道とは——シリーズ中随一のスリリングな物語。アンカ役A・ビェドジェインスカのキュートさも魅力的だ。(55分)

- 受賞
- 2000年アメリカナショナル・ボード・オブ・レビュー功労賞(外国語映画部門)
 - 1997年シカゴ映画批評家協会最優秀外国語映画賞
 - 1991年デンマーク・ボーディル・アワード最優秀ヨーロッパ映画賞
 - 1991年フランス映画批評家協会最優秀外国語映画賞
 - 1990年イタリア映画批評家協会ヨーロッパ・シルヴァー・リボン賞
 - 1990年シドニー国際映画祭銅賞
 - 1990年「テレマ」誌(フランス)選出映画第一位
 - 1989年サン・セバスチャン国際映画祭審査員特別賞・批評家賞
 - 1989年サン・パウロ国際映画祭批評家賞
 - 1989年ヴェネチア国際映画祭FIPRESCI(国際批評家協会連盟)賞
 - 1989年ジュネーブ国際映画祭「明日のスター」賞
 - 1988年ヨーロッパ国際祭グランプリ
 - 1988年カンヌ国際映画祭審査員特別賞・批評家選出第一位
 - 1988年ベルリン国際映画祭フェリックス賞
 - 1988年モントリオール世界映画監督部門批評家賞

監督:クシシュトフ・キェシロフスキ
 脚本:クシシュトフ・ビエシヴィツキ+クシシュトフ・キェシロフスキ
 音楽:ズビグニェフ・ブレイスネル「ダメジ」
 主演:クリスティナ・ヤンダ「鉄の男」、
 ダニエル・オルプリスキ「ハロ・タデウシュ物語」、
 グラジナ・ジャボウフスカ「終わらぬ」、
 スズグニェフ・ザマホフスキ「トリコロール/白の愛」ほか

原題:DEKALOG
 1988年スタジオ・トル+ボリッシュ・テレビジョン製作 ポーランド映画
 カラー作品 | 全557分
 配給:シネフィル・イマジカ | 協力:紀伊國屋書店

第5話 ある殺人に関する物語



青年がタクシー運転手を殺す。弁護士も及ばず青年に極刑が下される。その場に立ち会っているかのような生々しいキェシロフスキ演出にノックアウト必至。本作がベースとなって長篇『殺人に関する短いフィルム』に発展、カンヌ映画祭審査員特別賞を受賞したことで知られる10篇中最もヘヴィな作品だ。フィルターを駆使した幻想的な映像も見所のひとつ。(57分)

第6話 ある愛に関する物語



若き郵便職員トメクは今夜も向かいに住む女性アーティスト、マグダを望遠鏡で見つめる。彼女を愛する一心からだった。そして彼は偽の為替通知を発行し彼女が窓口に来るよう仕向け、遂にその想いを告白するが——第5話同様、後に『愛に関する短いフィルム』に結実する秀作。うぶなトメクと孤独を抱えるマグダ、愛に不器用な二人の邂逅が痛ましい。(58分)

第7話 ある告白に関する物語



高校生のとき娘アンカを出産したマイカだが、体面上マイカの母エヴァがアンカの“母”で通していた。7年後、すっかりエヴァになつたアンカを取り返すため、マイカは実の娘を誘拐するが——子供のできない体となった故孫を溺愛するエヴァと、娘を盗まれたと感じるマイカの、母親同士の対決の行方は? 終幕の“選択”がほろ苦い、シリーズ中最もドラマティックな一篇。(55分)

第8話 ある過去に関する物語



人気教授のゾフィアには、第二次大戦中ユダヤ人少女を匿うための洗礼の立会人になることを、カトリックの教えに反すると拒否した過去があった。しかしある日聴講生として、生き残り成長した少女がゾフィアの元を訪れる——消せない罪悪感を抱く者と、「なぜ」を問い続けた者。大きな溝を乗り越え交流してゆく二人の女をじっくり描いて深い余韻を残す力作。(55分)

第9話 ある孤独に関する物語



性的不能になった心臓外科医のロメクには慰める妻ハンカの言葉も響かない。やがてハンカの不倫を疑うロメクの予感の中、間男の存在に気づいてしまい——男性なら笑えないシチュエーションから男女の絆の強固さへ昇華、俗から聖を導くキェシロフスキ演出が冴える一篇。キェシロフスキファンなら顔く、あの作曲家の曲も劇中を彩る。(58分)

第10話 ある希望に関する物語



父の切手コレクションに莫大な価値があることを知った兄弟は換金して大金持ちになろうと企むうち、段々幼少時のように仲良くなり、次第に切手そのものにも興味を持つようになる。やがて兄弟は連作の切手集のうち所持していない一枚を手に入れようと試みるが、仲介人は彼らにとんでもない“条件”を持ちかけた——10篇中唯一のコメディだがラストは思わず涙が。(57分)

